

第2回庄原市長期総合計画審議会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和7年5月29日（木） 14:00～

2. 開催場所 庄原市役所本庁舎5階 第1委員会室

3. 出席委員 上水流 久彦 委員 ・ 板倉 一弥 委員 ・ 土井 幹雄 委員
上田 正之 委員 ・ 大原 一展 委員 ・ 林 充 委員
八野 祐次 委員 ・ 岡崎 輝子 委員 ・ 今田 貴子 委員
早川 太 委員 ・ 川崎 弘子 委員 ・ 廣澤 伸高 委員
東 泰治 委員 ・ 田邊 良三 委員 ・ 織田 みね子 委員
表 良則 委員 ・ 福元 奈津 委員 ・ 島津 宏 委員
垣内 絵理 委員 ・ 水戸 美代子 委員

4. 欠席委員 児島 茂春 委員 ・ 名越 千晴 委員 ・ 伊藤 郁夫 委員

5. 出席職員 庄原市長 八谷 恭介
企画振興部長 足羽 幸宏
企画振興部企画課長 田部 伸宏
企画課企画調整係長 安藤 秀明
企画課企画調整係 山上 翔大

6. 傍聴者 1名

7. 会議次第 別紙のとおり

8. 会議経過 別紙のとおり

第2回 庄原市長期総合計画審議会 次第

令和7年5月29日（木）14：00～

庄原市役所 本庁舎5階 第1委員会室

1. 開会

（1）市長挨拶

（2）新任委員の紹介

2. 会長挨拶

3. 議事

（1）報告事項

（2）基本事項（案）について

（3）今後の会議の進め方について

（4）専門部会について

4. その他

5. 閉会

会議経過

1. 開会

(1) 市長挨拶

第3期長期総合計画は、庄原市において最上位に当たる計画となり、大変大事なものである。昨年より準備を進め、事務局の方で、今回計画案を作っている。ご承知のとおり選挙があり、私が市長就任させていただいたので、いくつかこれまでの経過を踏まえながら、見直す点もある。何よりも皆様のご意見を十分に聞いた上で、今後10年間の庄原市の方向性を検討し、決めていく大事な計画になる。これから大きく変わり、より良い庄原市になるための計画となるので、色々な思いを、私の方でも入れさせていただき、十分に皆様にもご意見を出していただきながら、10年後を見据えた検討を進めていきたいと思っている。引き続きご協力をいただき、しっかりと議論をしていただきたいと思います。

(2) 新任委員の紹介

庄原市PTA連合会 山藤 博章 委員の辞職に伴い、同連合会 早川 太 委員が就任

2. 会長挨拶

先ほど市長のご挨拶にもあったように、本日は少し立ち止まって、改めて庄原市のこの10年間の歩みを振り返りながら、どのような課題があるのかを検討したいと思っている。委員の皆様には、課題や良かった点などご自身が感じていることで結構ですので、一言ずつご意見をいただいて、今後の検討の参考にしたいと思っているので、皆様の活発な意見をいただきたいと思います。

3. 議事

(1) 報告事項

資料により事務局が説明

委員：市民ワークショップニュースの便りが、とてもカラフルで見やすくて楽しそう
で素敵である。私は、初めて見た。市のホームページはなかなか見に行かない。
何か調べたいことがあったら見に行く程度のため、そこに載せるだけではなく、
例えば各自治振興センターに置くなど、色々な方が目にしやすくすると、こんな
ことをやっているということが伝わり、皆さんが意見を言いやすくなると感じ
た。

事務局：さっそく実行する。

委員：中学生アンケート調査に関して、幸福度は庄原地域、東城地域と西城地域のみが記載されているが、他の地域を見ることができるのか教えていただきたい。

事務局：各学校経由でアンケートを行っているが、地域別に集計する場合に、数名の話なのか、数十、数百名の話なのかのように母数に違いがあり、平均であっても正確性を欠いて比較しにくい点がある。集計は可能である。

委員：中学2年生を対象にアンケートを行われているが、小学校の低学年は難しいかもしれないが、高学年を対象にアンケートを実施できないか。

事務局：今回のような市民アンケートを実施するのは、難しいと思うが、意見や考えなどを聴取する方法はあると思うので、検討させていただく。

委員：クロス集計という言葉が頻繁に出てきたが、例えば、16 ページの幸福度のクロス集計の結果は、年齢や性別など属性とのクロス集計の結果である。さらに、質問項目と質問項目をクロス集計すると、課題や施策が見えてくるのではないかなと思う。例えば、幸福度に関する項目とまちづくりへの参加に関する項目をクロス集計すると、まちづくりへ参加意欲が高い人の幸福度が高いと言ったような結果となり、施策としてまちづくりに参加するといった計画を入れればよいことになる。多少面倒なのだろうが、質問項目同士のクロス集計を考えていただきたいと思う。

事務局：おっしゃる通り、他の質問項目でどのように答えた方が、どのように感じているかの集計は重要だと思っており、そのような分析を行う予定にしている。全ての項目をクロス集積させるのは、マンパワー的な問題もあるので、ご意見を参考にさせていただきながら進めていく。

会長：今、ご意見いただいたように、特に幸福度が高い人がどのような選択をしているのかは、もう少し見る必要があると思う。このような選択をされた方の幸福度が高いということが統計的にわかることが重要であるので、また情報を提供していただきたいと思う。

幸福度が話題になっているので、お伺いしたいことがある。面白いと思ったのは、中学生の幸福度平均値は、6.7 で、高校生は 6.0 になり、大人では、6.0 である。もちろん、中学生、高校生は、家庭環境の影響も大きいとは思いますが、中学

生から高校生になると 6.0 に落ちるのはなぜか。逆に、この 6.7 は、全国平均で見た場合に、高いのが低いのが気になる。先ほど、市民アンケートでは、6.5 程度が全国平均との説明であったが、子どもの 6.7 はどうなのか。

事務局：全て分析がしきれてないところがあり、申し訳ない。全国の 10 代、20 代の平均値は、6.4 です。中学生の 6.7 は高い方である。それが高校になると落ちる点は、これからの分析が必要かと思う。

会 長：先ほどの質問と重なるが、幸せを感じていた子どもたちが、だんだん幸せを感じなくなっている。6.0 はあるので極端な言い方かもしれませんが、そのように考えた時に、どのようなところで皆さんが幸せを感じるのか、子どもは家庭環境も大きく影響してくるので、違う要素が入ってくるかもしれないが、全国平均を超えていたものが、下回るという大きな変化があるので、クロス集計も工夫して何が要因なのかを検討していただければ、今後何をすれば良いのかの参考になると思う。高校時代にやはり幸せだと思っていたかないと、また戻ってくることはないと思うので、この点は、深く検討していただきたいと思う。

(2) 基本事項（案）について

資料により事務局が説明

委 員：非常に大事な基本理念をこれから話し合うとのことなので、私もこのような機会に出させてもらい、真剣に考えなければならないと思っている。考えることや勉強をしなければならないのですが、あまりにも知らないことがあり、大切な財政についても資料を見ながらもっと勉強したいと思っている。また、先日、市のホームページに分かりやすい資料があり、読んだのだが、何か大きなことを話すためには、小さな具体的なことをもっと見ていきたいと感じた。このように大勢の皆さんがいらっしゃる中で、色々な現状や課題など、それぞれの方が知っていることを、もっと知って、話し合いたいとの思いが正直なところである。

会 長：この後に、意見交換の場で、各地区や医師会等を代表して来て頂いている方々から、お話をしていただきながら課題をこの委員の中で共有したいと思う。

委 員：私は、10 年前に移住して来たが、10 年前にアンケートに答えていたら、幸福度や色々な質問に最悪な回答をしていたと思う。例えば、「コンビニがない、スーパーがない、雪がたくさん降る、病院がない」など。しかし、10 年も住めば人は変わる。アンケートは、今のことしか、聞いていない。もし 10 年後の今にア

ンケートを受けたら「交通の便が少ないから、子どもたちは道路を自転車で走っている、病院がなくても病院にはあまり行かない、コンビニがなくても生きていける」と答えると思う。今時点ではなくて、10 年前と今の気持ちの変化が分かると、もっと楽しいと思いながら、自分に置き換えて聞いていた。

会 長：その点は、第3回目のワークショップが、どのように開催されるか分からないが、色々な世代の方が、自由に参加し話ができるところなので、特に、移住された方は、来てみて思ったこと、住んでみて違う良さを発見したとか、違う課題を発見したとかがあるかもしれないので、ワークショップでもそのような点に、もう少し目配りしていただければと、ご意見を伺いながら思った。

事務局：アンケートは、その瞬間のことを意見することになるので、1 人の方の 10 年前、現在、10 年後を追いかけて調査するのは、難しい面がある。しかし、おっしゃるように人間は適応していくので、設問の中に「10 年後の課題」を聞いており、マイナスイメージのことが多く出てきている。10 年先を見て、「こういったまちになったら良い」や自身の経験を踏まえて「この先こういうかたちにできたら良い」ということも、今後、会議の中でもお話しさせていただきたいと思う。

会長が言われたワークショップ等でそういったこともお聞きもしているので、その中で、先ほど意見いただいた詳細な資料も揃えながら、色々な意見をいただければと思う。

委 員：説明があったように立派なアンケートができ、それらを集約する状況だと思う。この計画を作る段階では、アンケートを行い、計画、実施計画、そして施策展開との一連の流れの中で、アンケートの結果や課題に対して、今後市政をどのように具体的にするのか、先をまだ急いではいけないし、今から詰めて行くことだが、やはり実施計画、施策展開をどのように図っていくかが、1 番大切であり、それが最終的な計画だと思っている。計画で資料をつくることは難しいと思うが、こうした審議会やワークショップにおいて議論する過程においては「現在の課題に対してこうやっていくのだ」という具体的な資料ができて、初めて我々は具体的に議論をできると思う。非常に難しいと思うが、やはりそれがなければ、失礼な言い方かもしれないが、計画で終わってしまう。しかし、計画で終わってはいけない。実施計画をローリングする事になっているが、最初のスタートから「この課題に対してこうしていく」と具体的なものを整理して、議論をさせていただければ我々も発言しやすいし、皆様にも分かっていただけではないかと思う。

会 長：この後、各部会が実施されていき、各部会でそれぞれの施策について議論し、細かい議論が進んでいくと理解している。

事務局：冒頭にお伝えしたように、本審議会は、選挙があり間が空いてしまった。今日は、計画の1歩目として資料を提供している。具体化に向けて、大きな将来像や細かい柱までは、まだお示しできる状況ではない。庁内では、この10年を振り返り、そこから導き出された課題と具体的な取り組みをまさに構築し始めたところである。これらについては、次の専門部会にて、まとまった部分から示させていただく。「何を具体的にやっていくのか、どうやるか」を議論いただき、さらにこの全体審議会の中で、精度を高めていくことを考えている。不十分な点があれば、ご指摘などいただければと思う。

委 員：20年前に合併した時、庄原の中心街は、とても活気があり周辺部から庄原へアパート借りて出るなど、良い感じでスタートした。それが、20年後の今、私が生まれ育った総領町の状況は、公共交通がなく、商店もない。ガソリンスタンドは1件だけとなり、JAは金融だけしか残っておらず、生活するのが難しい状態になっている。今庄原の市街地も寂しくなり、本町の商店街は、ほとんど人気がなく寂しい状態である。これから10年先、そういう風には絶対なってほしくないで、ここでしっかりと今からどうするかを検討していかなければならない。住居にしても、三次と庄原を比べると家賃は三次の方が安いため、三次へ人が流出している。色々な条件を知る立場にありましたので、ここで話ができるのだと思っている。住んでいる人たちのことをアンケートで聞くだけではなく、実際に話を聞いていくことも大切である。ワークショップもいいと思うが、それぞれの地域で話を聞く機会があれば、もっと具体的にどうすれば良いのかということが考えられるのではないかなと思う。

委 員：今の意見に賛成である。アンケートで幸福度や住み良いか良くないか調べるのは、基本で大事だとは思いますが、今困っていることや現状から何ができるかなど、何をやっていきたいのかが具体的に出てないと、皆さんが集まって話をしてもなかなか進展しないと思う。

今からそれをやっていくのだと思うが、アンケートの説明を聞いていても自分の中で構想が立てにくく、意見として具体的な言葉が出てこないと感じた。その点が残念だが、今からそれを実施していくのであれば、嬉しく思う。

事務局：おっしゃるように、本日は具体的な話を紹介できず、皆様が消化不良を感じた点は、お詫びする。現時点では、担当課で具体的なことの検討の遡上に上ったと

ころである。今後の会議の中で、詳細な事業内容は行政の仕組み上もう少し後になりますが、具体的に何ができるのかは示して参る。例えば、福祉にはどのような課題があり、何を指すのかをお示しする。それらは、教育分野、環境整備分野、自治・まちづくりの分野など様々な分野について示しながら、身近なものに感じられるように、これから積み上げて行くことになるので、ご理解いただきたい。

市民の皆様の近くで意見を聞くべきというご意見は、まさにその通りである。皆様のお話は、この計画をつくるためだけに聞いているのではなく、様々な事業や取り組みについて、意見を聞きながら進めて行くようにしている。特に、今回は計画を改定するために、アンケートなどを行っているが、さらに詳細分野の計画をつくる時には、アンケートだけに留まらず、実際にヒアリングや現場に行くなどを重ねている。それらを通じて、各地域が20年前と比べて確かに寂しい状況になっていることも、承知している。だからこそ、しっかり現実を見ながら皆様が思っている課題に的確に対応した取り組みを、この半年をかけて整理していきたいと思っているので、ご協力をお願いします。

委員：庄原市内の小・中学校の児童・生徒数が年々少なくなり、今年度は峰田小学校と栗田小学校が統廃合された。人数が減り統廃合が進む中で、少人数の学校は、多くの悩みを抱えているので、それらを知っていただくためにも、データに小・中学校の児童・生徒数の推移データを追加していただきたい。そのデータを基に各小・中学校の悩みを伝え、知っていただけるのではないかと考えるので、検討をお願いします。

事務局：統計数値として、資料4の35ページに令和5年までの推移を載せているが、今後、見込みについて、掲載するか否かは議論が必要である。また現状では一つの分類のみであるので、示し方を検討した上で整理をして計画に掲載したいと考えている。

委員：自治振興区でも、困りごとなどのアンケートを取るが、アンケートの回答は、実は本気で思っていないところがあると思う。例えば、当方で行った困りごとアンケートの結果、1番多かったのは家の前の草刈りであった。そこで、応援隊をつくったが、依頼は3年で1件だけであった。また、高齢者でゴミ出しステーションが遠いと言っている方は、ステーションから500m以内の人がほとんどで、何キロも離れた方は何も言われない。このような実態があることを頭の中にいれてアンケート調査を進めてほしいと思う。

また当方の事業では、教育、産業、移住定住、困りごとの四つの部会を、やり

たい人が集まるという方針で運営している。その結果、年配者も若干いるが、若い人が多い。教育部会では、今まで無かった学校と住民の話し合いを行っており、先生から困りごとを聞いたり、先生に高野町を知ってもらうために年1回、人事異動のたびに、旧小学校で地域の産業などを見てもらったりしている。困りごとでは、町民がお助け隊のようなかたちで、例えば、花壇、絵手紙やしおり、縫物などの困りごとを助ける活動を学校と一緒に進めることもしている。移住定住では、先日の新聞に、ある酒屋の団体が全国の人との交流の場を設ける記事もあったと思うが、定住意思のある方は少ないので、住民が、交流を持ちながらまちづくりのアイデアなり援助なりを求めており、昨年末にはある企業から高野町のために、ふるさと納税をしていただいた。

庄原市の長期総合計画の中では、アンケート取ったりしながら段階的に進めていく事が必要だと思うが、まちづくりなどはある程度動きながら進めなければならないと思っている。動かしていく中で、今まで1番困ったことは、1市6町を均等にしなければいけないとの考えが強いことである。地区特有の困りごとを反映してもらえないので、住民だけで動かなければならない場合があり、動けば解決できることは良いのだが、予算が必要な場合は非常に難しくなる。必要などこに必要な予算を、他と比べることなく集中的に当てていただきたいと思う。

会長：各地域の課題に合わせた対応を取る必要があるということである。そして、アンケートに対して、色々と強い意見が出ているが、アンケートを取るにしても、アンケートでは捉えられない問題に関する意見をいただくことがこの会の趣旨であるので、この後で皆様から意見をいただきたいと思う。

委員：第2期長期計画の現状や課題に絡むことではあるが、冊子の3ページに、目標人口が分かりやすく記載されている。今の庄原市の人口の30,700人は、おそらく10年前の構想で想定していたよりも厳しい結果だと思う。従って、今アンケートを取って課題を抽出し、方向性を考える段階だと思うが、もう少し悪い数字を出し、厳しく取り組んでいかなければ、上向いていかないのではないかと思う。

事務局：目標人口については、市長、副市長、教育長を交えた庁内の会議でも議論になった。何が目標人口の達成に足りなかったのかをしっかりと捉えなければならないとの指示が市長からあった。この点に関しては、ある意味冷徹な目で見ているのではないかと認識している。

委員：資料3-1で第2期の検証が行われているが、わかりにくいと思う。

事務局：これらは、それぞれの目標項目の達成度であり、これが全てではない。これからさらに深く切り込んでいく作業をしていく。これについては、今日時点は、入り口だとしてご理解いただきたい。

委員：子育て支援センターの利用状況と病児病後児保育施設「わらべ保育室」の利用状況などがわかる資料を頂きたい。

事務局：ご用意する。

委員：私は、第1期長期総合計画の委員をしていた。今、この会に出て、随分と雰囲気が変わったと感じている。変わった点は、第1期では、既に線路が引かれていたが、今回は皆さんから色々な意見が出ており、それらが反映されてかたちになっていく感じを持っている。そのことを特に意識して、事務局も進めていただければありがたいと思う。

また、私は、昨年度の残ったお米しか食べたことがなく、古古米や古古古米を食べたことがない。野菜もキャベツができない時には、他のものを食べている。つまり、ないものねだりをしても、新幹線や空港や大型ショッピングモールを呼ぶことはできないので、自分から幸せを見つけてつくっていくしかないと思う。野菜をお裾分けするなど、そのまちの良さを引き出すように発想を転換しなければならない。都市部と比べることなく、自分たちは一体何ができるのか、何をしなければならぬのかということから入らないと、勝負にはならない。面積が広く小さなまちである庄原の良さが必ずあり、それをもっと前面に出せるような計画構想になっていけばと思うし、自分からもそういうお話をさせていただければと思っている。

会長：一旦、この基本事項案が、このかたちで良いかがポイントであるので、私の方から意見を言わせていただいて閉じたいと思う。今後の進め方も含めて、この後、意見交換の時間も取っているので、そこに移りたいと思う。

説明資料6ページ、6番「地域とグローバル社会との関係の深化」の「関係の深化」は、分かりにくいと思う。地域とグローバル社会が連動して、移動が色々進むなど国際的な状況が地域社会に影響を与えるということが書いてあるのだけれど、この環境の深化とは何を深化と呼んでいるのかが不明確なため、この文面は整理した方が良く思う。3番にロシアのウクライナ侵攻が書いてあるが、まずは日本が抱えている問題の中で、この地域をどう考えるかの視点を出すといった、整理をしていただきたいと思います。

6ページ「3. 都市経営の状況」とありますが、都市経営になにか意図がある

のか。歳入・歳出や財政や公共施設の情報を扱う際の専門用語なのか。この言葉遣いが分からなかったのも、もし他に相応しい言葉があれば検討していただきたいと思う。

委員の中から、それぞれの地域の特徴や課題があると意見が出たと思うが、例えば小学校の数が地図で見て状況が分かるものがあるとありがたいと思う。商店の話も出たように、ここには多くあり、ここは無いとか、どの項目に対応するかは別だが、今の市の全体状況が分かるものがあるとよいと思う。それと、もう1つ大事なのは、今後のネットワークであり、基本的には公共交通機関だと思う。例えばバス路線がどこを通っているのかみたいに、移動の仕方がもう少し頭に入る資料があれば良いと思う。全部入れてほしいのではなく、暮らしを考える上で必要な現状のデータが分かりやすく示されていると良いと思う。例えばタクシーがどこでどのくらい稼働しているかなど、この市の交通状況だとか分かるものがあると大変ありがたいと思う。

事務局：それぞれご指摘いただいたところは、内部で検討する。また、公共交通は、前回の会でもありましたように非常に重要な課題と考えているので、分かりやすい構成、資料を提供できるように、記載方法を検討する。

会 長：基本事項については、素案ということで、今後、変わる点もあるとは思いますが、基本的なところは本素案で進めることに了承をいただいた。

(3) 今後の会議の進め方について

資料により事務局が説明

会 長：今後の会議の進め方についての意見交換ということで、既に様々な、進め方や考え方の意見をいただいているかと思うが、折角なので思っていることを簡単に申し上げていただければと思う。よろしければ、順番にご発言いただきたいと思います。

委 員：アンケートについては、私は、市民目線からのアンケートを見ており、それらをいかに今後の積み重ねの中に入れていけるのかという、1つのベースだと理解している。この会議は、スケジュールにもあるように、色々なところから最終的にそれを組み立てていくと理解している。もう1点は、今後、庄原市の人口が減ることは、どうしようもないことなので、その中で幸せはどこにあるのかと、どういうまちづくりをするかということに1つのベースを置いて、各ビジョンの中で話をしていただければありがたいと思う。

委員：今の社会では、誰も予想しなかったことが起きている状況である。先が見えない計画を立てるのは難しいことだと思う。その中で、庄原の基幹産業は、農林・畜産業であり、林業は木を植え、木を育て、木を切って出荷するのですが、再造林が進まない状況にある。その要因がアンケートの結果では、一番多いのが後継者不足、次いで山を手放したいというのが合わせて半分以上を占めている。農業も同じ構図だと思う。米が高く、作れ、作れと言われているが、だれも作らないと思う。結局、根本の原因は、人口減少である。私が東城に帰ったころの人口が13,000人程度だったものが今では6,000人で、これからさらに減っていくと思われる。組合でも非常に危機意識をもっている。1番必要なことは人口対策である。増やすのは無理でしょうが、現状維持をしないと、いくら良い計画を立ててもうまくいかないと思っている。

委員：10年後のことを話すので、中・高生のアンケートもあったように、実際にこの会議に入れていくことが非常に大切だと思う。

今から専門部会ができると思うが、例えば、交通機関でいえば特にタクシーの問題などは、専門部会に専門の人を呼ぶことも大切ではないかと思う。

委員：総合戦略の「戦略」という言葉が戦前の感じがして気に入っていない。事業所のアンケートに関しては、私も回答したが、よくは覚えていない。この会議は最上位の会議ですが、この下の会議でも色々話し合をさせてもらっている。

次に、医療介護不足は、限られた資源で健全にサービス利用することであり、皆さんの協力が必要だと思う。幸福については、ムヒカ大統領のように、モノやカネではなく、自分で考え、発想を転換することが必要だと思う。先日、庄原赤十字病院の会議に出たが、人口減少の問題があり、やはり産科と小児科はセットにして、やはり地元で生まれてもらわなければならないと思う。かなりの予算を、庄原の医療を考える会もそうですが、使っている。

最後に、自然や国営公園の言葉が出ていたが、繋がりということで地球の健康も悪くなっているのも、それに対しても我々は、環境、動物・植物、人間についても考えていかなければならないと思う。

委員：別の機会に話させて頂く。

委員：第2期長期総合計画で色々な施策が出されているが、それらが市内全域の方に連絡がいきわたっているかが疑問である。私は、庄原市の身体障害者連合会に所属しており、ここでは身体障害者の方を集めて、スポーツや話し合いなどと色々なことに取り組んでいる。しかし参加者が全く変わらず、どんどん年配者の集まりとなる一方である。そうした中、若い人が入ってくれば、私たちは、スポーツ

大会も開催しており、パラリンピックへ行くような人もいるため、もし市の方から、障害者スポーツの関係で一声かけていただければ、お力になれると思っている。

委員：私は、庄原青年会議所を代表して参加している。青年会議所は、まちづくりと青少年の健全育成に取り組んでいる。近年のトレンドとして、特に青少年においては郷土愛の育成と地域の魅力を感じてもらう取り組みに力を入れている。

仕事柄が、不動産の開発を手掛けており、まちに対しては感じるが多々ある。庄原では、企業誘致で商業施設などに声をかけるが、なかなか難しい状況である。これは大いに人口が影響している。三次市では開発案件も手掛け、結果も出しているが、まずはその、抜本的な解決をしたいというのが思いである。例えば、出雲市や東広島市の成功事例から学ぶ点は多いと思われるし、これは持論であるが、雇用からではないかなと考えている。このような機会をいただけたので、しっかり自分の意見を出していけたらと思っている。

委員：今までのアンケートはそれなりに、色々とわかってきたこともあり、それは良かったのかなと思う。今後、アンケートについては、何かどうなるかがまだよく分からないが、今はやはり庄原市の現状の課題をしっかり踏まえて、今何をしたらいいのか、どんな魅力的な庄原市にしていきたいのか、それにはどんな手立てがあるのかということをみんなで議論しながら、話したものをしっかり盛り込んだ長期総合計画にしていきたいと思う。

例えば、私は山内に住んでいるのですが、鳥獣問題で住民が米作りや野菜作りでとても悩んでいる。どうしたら鳥獣が減るのかということ、市の予算などもいただきながら、こういう手立てがあるのではないかと、話していく必要があると思う。

私は女性会に所属しており、女性が集まり、楽しいことやしんどいことをしたりしている。地場産業ではないが、自分たちが野菜などを作り、それを商品化し、皆さんに食べていただくことで、お金をいただいたりできるようにするには、この鳥獣問題がすごい大きな問題で、足かせになっている。今は柵の中で人間が生きているような感じがあり、前は鳥獣を柵の中で育てていたが、今は逆になっていると感じる。60年代ぐらいの庄原市であれば鳥獣が悪さをせず、柵も電柵もしなくてよく、自由に野菜を作ったり、米を作ったりしていた。今、それは無理である。お金をかけて、手間をかけてやっと思ったら鳥獣にやられたりもする。今は、そこが1番ネックになっている。そのようなことを盛り込んでもらうような何かが欲しいと思っている。

委員：子育て推進委員をやらせてもらっている。この会はいい話し合いだと思う。それを市民の方、子育て中の保護者の方々がなかなか認知されていないことが多いので、その認知をされるようにするためのことも話し合っていけるとよいかなと考えている。

委員：庄原市のPTA連合会の会長として、PTAの性質上、子供に寄った意見になるが、先ほど少し触れたのですが、庄原市内の児童・生徒数が減少している中で、物価上昇の煽りをすごく受けている。基本事項の5ページでも触れられているが、給食費について、どの学校も牛乳が提供されていると思うが、牛乳の輸送費がかなり上がっており、輸送費をどう補うかということで、給食の内容をボリュームダウンしている。直近でいえば、総領小学校、総領中学校で昨年度、給食費の値上がりについて、保護者、先生、地域の方々に説明があったが、その中で、給食が今までの7割、6割ぐらいしか提供できていないようである。量を少なくしたり、今まで提供できていたデザートが提供できなくなったりしている状況である。給食は、子供の成長においてすごく影響が出るため、栄養はすごく管理されていると思うのだが、子ども達が満足する給食を提供していくためには、この問題も解決すべき問題ではないかと思っている。私が小学生だったころは、大人の方々によくしてもらった印象しかない。今、私がその立場になり、この状況はどうしても目を瞑れない状況であると考えている。

市民アンケートの調査の22ページにもあるが、子どもという言葉がすごく大きく出ている。今のこの庄原市内の大人の方々は子どものことに10年後、とても心配されているのだと思う。ここで意見交換しながら、子どもたちの明るい将来のために何か意見を頂戴しながら、できることがあればと思っている。

委員：総領町の振興区の住民の立場でお話をさせていただきたいと思う。先程の話で、なぜ人口が少なくなったのかという前提での話であったので、そのように思っておいていただければと思う。ドーナツ化が色々なところで進んでいるということが言いたかったのですが、少し言葉が足りず、伝わっていないのかと思い説明した。

今、総領町の人口は来年、1,000人になるかといった勢いでどんどん減っている。そのため、まちづくりを考える時には、1,000人のまちをどのようにすれば暮らしやすくなるかということを、住民、社協、支所、民生委員が集まった、「さいたらの会」という会を立ち上げ、ここで議論しているようなことを6年ぐらいしている。その中で出てくる問題をここでも提示させていただいて、これからの庄原に役立つことを、具体的に考えていければと思っている。

1つ余談であるが、今、1人暮らしの人がとても増えている。なぜ1人暮らし

になるのかと考えた時に育った子どもが中学、高校、大学で出ていくと思う。出て行って、大学を終えて帰ってきてでも務めるところがないため、帰ってこない。そのまま行った都市にいるという現象がある。今、米不足で、米をどうにかしたいという気持ちがある。都会に出て行った人が帰って来ようとする、庄原市は農家が多いため、農家を継ぐというかたちになる。今、米農家の時給は97円である。これでは、帰ってこない。昨年あたりから、米価が上がり、赤字だった農家も小規模の場合は少しだけ売り上げが出るようにはなっている。大きな話でいうと食糧法を変えていただき、帰ってきて、農業しても生きていけるぐらいの収入があるといった産業になれば、帰ってきて、手伝おうという人も出てくるのではないと思う。その時には、国から補助金があるが、庄原市も補助金を出すということができるように話し合えればと思う。

委員：自分の息子は、このアンケートに回答をしている。旦那50代と小学生の娘、70代、80代の義理の父母がおり、西城には、私の60代の父母がいる。アンケートには自由意見なしと書いてあったため、家でもみんなでご飯を食べる機会があれば、庄原市について話しをして、色々な意見を聞けたらいいと思う。

委員：2つあります。

1つ目は、知らせるという部分は、色々工夫が必要だと思う。知ってもらい、自分も意見が言えるんだ、参加できるんだと思ってもらうことが、PTAや小さなところで役員とかやっても思う。市を明るくしていくためには、自分が関われると思ってもらうことが、とても大事だと思うため、長期総合計画の出前トークも30分であることを、この間初めて知ったが、そのような積極的な広報を、行政からだけでなく、やっていくことが必要だと思う。

2つ目は、色々な方面でアイデアをかたちにしていきたい時に、お金が必要であるということだと思う。今の財政を見直す部分もとても大事である。私は公共交通を考えていきたいと思っている。人口の減少を考えても、市の施設や指定管理の施設がとても大事であるが、この部分についても学んでいく必要があると思っている。そのようなことを知ることができる資料や勉強できる機会がいただければありがたいと思っている。

委員：今後の進め方について、専門部会が重要になってくると思う。そういう意味では、2回で本当に良いのかと思う。2回の専門部会で分野別の施策を話すとなると予算も示されると思うので、専門部会ではそのあたりも含めては詰めさせてもらえればと思う。

委員：アンケートを見ていて、高校生が外へ出て帰ってこない。アンケートを見れば庄原市以外に住みたいが38%ぐらいで、庄原市は魅力がないのだと思う。私ももちろん小中高と庄原市で育っています。その後、県外へ出て帰ってきているが、なぜ庄原市がそんなに魅力がないのかと思う。もう少し小中高の教育機関で郷土愛や郷土史を扱って、もう少し自分たちが住んでいる庄原市に、いいところがあるのだということを勉強させることも必要なのではないかな。

私はスポーツ関係、学校関係の所属である。庄原市も総合型スポーツクラブというチームをつくって、今18年目になるが、地元の高齢者の方が来てスポーツ、出前講座をしている。もう少し、体を動かすという意識を持ってもらうことで医療関係も少なくて済むし、市民の健康づくりにもなるということも視野に入れて考えてもらえばよいと思う。

委員：子どもたちに郷土愛や地域を知って、地域の誇りというものを持たせるような施策が必要だと日頃から思っている。

しかし、本市の姿の市の概況から歴史や文化が薄くなっている。歴史や文化は郷土愛やそれを知るといえることがとても重要になってくるにも関わらず、長期総合計画の本市の姿で内容が薄くなるということ、歴史や文化、教育に関するデータが数字で追ったデータしかないというのは寂しく思う。

市長が冒頭来られていたが、前市長は「庄原いちばん」を進められていた。今回、10年の長期総合計画を作るにあたって市長の思い、やりたいことを聞けるのかと思っていた。市長のやりたいことがあるのであれば、直接でなくても良いので、次回に聞ければと思う。それを踏まえて、10年の計画を作る必要があると思う。

委員：私たちは何歳になっても元気で、楽しく、健康寿命を延ばしたいと思っている。アンケートや色々なものを見ながら、私たちが本当に庄原市に住んで良かったと思える庄原市であってほしいと思う。これから色々と具体的な例も出てくると思う。その中で、みんなで知恵を出し合って、住んで良かったと思えるような庄原市にしていきたい、そういう思いでこの会議に参加させていただいている。

会長：わくわくするような長期総合計画になれば良いなと個人的には思っている。

(4) 専門部会について

資料により事務局が説明

会 長：今の説明について、何か質問があるか。こちらは案になるので、専門部会で要望があれば出していただければと思う。

委 員：長期総合計画の基本構想・基本計画の議決が３月ということで、実施計画も基本構想・基本計画に沿って、令和８年度から実施になるのか。

事務局：おっしゃる通りである。実施計画というのは具体的な事業になり、令和８年度の予算と紐づいている。そのため、大きな方向性は１２月までに庁内でも共有する。それに沿ったかたちで事業の実施計画もつくっていく。スタートは令和８年４月からの事業を実施計画でまとめ、予算も合わせて同時期に成立していくというかたちになる。できてないのにどうなるのかというご意見、ご感想をお持ちかもしれないが、同時に予算についてもこの３月議会で議決になるので、ゴールは一緒と思っていただければと思う。

会 長：先程申し上げればよかったのだが、皆さまのご意見を聞いている中で、子どもは重要なポイントになっていると思う。今、子どもの貧困という問題もあり、そういうところも視野に入れながら考えていただけるとありがたいと思う。
議事は以上になります。

４．その他
意見なし

５．閉会